

## 主体的に学びに向かう学習者を育成するための学習評価の工夫 ー長期的ルーブリックと学びログの活用を通してー

（実践者）丸山 佑樹

### 1 研究テーマ設定の理由

今年度から中学校でも全面実施となった学習指導要領では、身に付けさせる資質・能力が三つの柱に整理されたことを受けて、学習評価も「知識及び技能」を「知識・技能」，「思考力，判断力，表現力」を「思考・判断・表現」，「学びに向かう力，人間性等」を「主体的に学習に取り組む態度」において評価することとなった。学習評価の在り方の変化に伴って，学習評価に対する考え方も変えなければならない。教師が学習者を値踏みするような従来の評価から，教師が授業改善に生かすための評価や，学習者が自身の学びを自覚したり，次の学びにつなげたりするための評価に考え方を変える必要がある。

学習評価の中で，特に「主体的に学習に取り組む態度」の評価をどのように行っていくのかについては，学校現場でも模索が続いている。「主体的に学習に取り組む態度」は①知識及び技能を獲得したり，思考力，判断力，表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとする側面と，②①の粘り強い取組を行う中で，自らの学習を調整しようとする側面を評価対象とすることが提起されている。

そこで，「主体的に学習に取り組む態度」の育成，特に「思考力，判断力，表現力等」の獲得に向けて学習者が粘り強く，また自ら学習を調整しながら取り組んだりすることを支援する学習評価の在り方について研究したいと考えている。そのための具体的な手立てとして，「自己評価活動」に着目する。特に，学習支援や授業改善を目的とする形成的評価のための，生徒による「自己評価活動」によって，生徒が主体的に「思考力，判断力，表現力等」を獲得し，言語の力を習得・活用する深い学びを実現していくであろうとの仮説を立て，研究を進めたいと考え，本研究テーマを設定した。

### 2 研究の内容及び方法

#### (1) 長期的ルーブリックの開発，活用

学習調整の力は1時間の授業のような短期間で育成できるものではなく，より長期的な学習の成果として育成可能なものである。したがって，その育成のためには単元を縦断する評価が必要となる。近年，それは長期的ルーブリックの開発とその活用として試みられており，本研究でも国語科の長期的ルーブリックの開発に挑戦することが，学習調整の力を育むための工夫になると考えている。そこで，国語科で育成する資質・能力の一つとして「論理的に思考し，表現する力」を位置付け，その獲得に向けた粘り強い取組と学習の調整を促すために，1年時から論理的な読みと表現の指導として用いている三角ロジックに関する長期的ルーブリックを開発した（表1）。三角ロジックを用いた論理的な読みとは，感覚的な読みに頼らず，言葉や表現をどのように解釈したかを根拠に自分の考えを論じる，事実・理由づけ・主張を明確にした読みのことである。そして，この三角ロジックを生かした読みを五つの段階に分けて示したものを長期的ルーブリックとして，3年間継続して活用している。長期的ルーブリックを使って自己評価させることで，自分の考えを客観的に見直すことができたり，より明確なものにできたりすると考えられる。

表 1 三角ロジックに関する長期的ルーブリック

|    |                                                                             |
|----|-----------------------------------------------------------------------------|
| 0  | 主張に対する根拠が曖昧、もしくはない。                                                         |
| 1  | 主張に対する根拠となる事実が示されている。                                                       |
| 2  | 主張に対する根拠となる事実が示されている。主張と事実をつなぐ理由づけ（主観的、想像、経験のみに依拠）がある。                      |
| 3  | 主張に対する根拠となる事実が示されている。主張と事実をつなぐ正当な理由づけ（理由づけの裏付け、客観的、言葉の意味、経験を交えた読み取りに依拠）がある。 |
| 4  | 主張に対する根拠となる事実が示されている。主張と事実をつなぐ正当な理由づけがある。根拠が複数挙げられている。                      |
| 5  | 主張に対する根拠となる事実が示されている。主張と事実をつなぐ正当な理由づけがある。複数の根拠が関連付けられて挙げられている。              |
| +α | 自分の主張の信頼性を高めるために、考えられる他の主張が間違いであることを証明する。                                   |

## (2) 学びログの活用

上記の三角ロジックに関する長期的ルーブリックの開発に加え、本研究では、生徒自身が自らの学習成果を振り返る自己評価のツールとして一枚ポートフォリオの考え方を利用した**学びログ**（A3紙面で作成し、単元名、単元目標、学習計画、本質的な問いと学習前後の答え、毎時間の学習履歴などを書き残すもの）を作成した。学びログには二つの役割がある。

一つ目は、各単元において目指す教科内容の習得、つまり単元に関わる「知識及び技能」や「思考力、判断力、表現力等」の獲得に向けた振り返りを促し、生徒の自己評価を可視化する役割である。具体的には、単元で身に付けさせたい目標や授業計画を明確にすると同時に、単元末で挑戦するパフォーマンス課題を明示することで、学習への目的意識や見通しを持たせる。その上で、本質的な問いの答えを単元学習の前後で記入させたり、授業時間毎に単元の学習目標と照らし合わせながら生徒自身に学習の成果や課題を振り返らせたりした。

二つ目は、教師が学習者の学びの変容や自己調整を見取り、形成的評価としての役割を果たす、あるいは学習者自身が学びを振り返り、自らの学習を調整するツールとして活用することである。以下で紹介する単元においても学びログを作成させ、記述内容に対して教師からコメントをしたり、学びの共有化を図るために授業内で紹介したり、学習者の学びの状況を把握して個別の支援に役立てたりして、学習者へのフィードバックに活用することで学習者が主体的に学びに向かうよう工夫した。また、生徒が学びログに残された自身の学習履歴を使って、パフォーマンス課題の解決のための過程を計画・修正させることで、自ら学習を調整できるように工夫を行った。

## 3 研究の実際

### (1) 指導の計画

3年生で9月頃に実施した、魯迅「故郷」（三省堂『現代の国語』）を題材とした「文学作品を読み味わおう」の単元を中心に研究の実際を述べる。本単元では、三角ロジックを用いて論理的に文章を読み、それらを基に文章に表れている書き手のものの見方・考え方に迫り、それに対する自己の考えを持つことをねらいとした。

### ア 生徒の実態

対象生徒（32名）は、アンケートによると「文学的文章を読む力が伸びたと思う」という項目において、ほとんどの生徒が肯定的に回答している。アンケートの記述からは、「論理的に思考し表現するための三角ロジックの活用」「話し合い活動などを効果的に取り入れた対話的な学びの充実」「既習事項を活用して問題解決を図るパフォーマンス課題の実施」など、これまでの研究実践に成果があり、力が身に付いていることを生徒も自覚できているということが分かった。

しかし、「国語で学んだことが実生活のどのような場面で役立ちましたか」「将来どのような場

面で役立ちそうですか」という項目において、「特にない」もしくは無回答の生徒が数名いることから、国語の授業で身に付けた言語の力が日常生活において汎用的に活用されているとはいえない状況があることが分かる。

## イ 研究テーマ実現のための指導の工夫

本単元においても三角ロジックに関する長期的ループリックと学びログを活用した。三角ロジックは文章内容の読解や学習課題に対する考えのまとめ、小集団や全体での話し合い活動など、授業におけるあらゆる場面で用いる。適宜、配付している長期的ループリックを見返させて、論理的に思考し表現できているかを振り返らせる。年度あるいは3年間という長期に渡って、同じ尺度で資質・能力を測ることで、客観的に自己の成長を把握することができると考えた。

また、「学びログ」には、授業毎の振り返り欄を設けることに加え、学習履歴を活用してパフォーマンス課題に取り組めるよう、裏面に「解決のプロセス」の欄を設けた。「解決のプロセス」とは、各授業で得たパフォーマンス課題の解決に必要なことを記入し、最終的な考えを論述するための整理をするスペースである。これにより、課題解決をするために、学習内容をどのように関連付けるかを自ら考えたり、解決すべき課題を新たに見いだしたりすることができると考えた。

## (2) 指導の実際

### ア 単元名

文学作品を読み味わおう（第3学年 C読むこと）

### イ 単元目標

○理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、慣用句や熟語などについて理解を深め、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。

〔知識及び技能〕(1)イ

○文章を批判的に読みながら、文章に表れている作者のものの見方や考え方について考えることができる。

〔思考力、判断力、表現力等〕C読むこと(1)イ

○文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつことができる。

〔思考力、判断力、表現力等〕C読むこと(1)エ

○言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝えようとする。

「学びに向かう力、人間性等」

### ウ 重点目標

#### <本質的な問い>

人はなぜ文学作品を読むのだろう。

#### <永続的な理解>

文学作品を読むことを通して、自分と文章中の登場人物（多くは主人公）を同化させて、言葉で表現される虚構の世界を共体験したり、想像力を働かせて登場人物に共感したりすることができる。また、文章に表れる書き手のものの見方や考え方に触れることで、人間・社会・自然などに対する自分の見方や考え方を变えることもできる。文学作品を読むことで、自分の想像力、感性、言葉の力を磨き、人間としての生き方を豊かにすることができるから、人は文学作品を読むのである。

### エ 評価方法

| パフォーマンス課題                                                                                                                                | その他の評価方法                                   |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------|
| あなたは、未来の日本にどのような希望を抱きますか？「希望～今と未来の日本を考える～」をタイトルに自分の考えを述べます。前段では、『故郷』の「私」にとっての希望とはどのようなものかを考えることで作者のものの見方・考え方に迫りましょう。後段では、作者のものの見方・考え方に対し | ○ワークシートへの記述<br>○観察<br>○机間指導による声掛け<br>○学びログ |

|                                                                                                          |  |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|
| て自分の考えを述べます。あなたは今の日本をどのように捉えていますか。<br>また、未来の日本をどのように思い描いていますか。「私」が故郷を離れる船<br>の中で思いを巡らせたように、自分の考えを述べましょう。 |  |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|

### オ パフォーマンス課題のルーブリック

ルーブリックは単元目標となっている学習指導要領の指導事項や三角ロジックの長期的ルーブリックに基づいて作成した。①は、文章を複数の視点から読み取り、それらを関連づけて文章に表れているものの見方や考え方に迫っているかどうかを、②は文章の内容に対する主張が明確であるかどうかを評価するものである。それぞれ単元目標の二つの「思考力、判断力、表現力等」に対応させている。

|   | 思考・判断・表現①                                                             | 思考・判断・表現②                                                             |
|---|-----------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------|
| A | 私の「希望」とはどのようなものか、妥当な根拠を基に読み取ることができている。かつ、複数の根拠が関連付けられていて、より説得力が増している。 | 今や未来の日本の社会について、自分の意見を明確に主張することができている。文章の読み取りと自分の考えとにつながりがあり、内容に納得がいく。 |
| B | 私の「希望」とはどのようなものか、妥当な根拠を基に読み取ることができている。                                | 今や未来の日本の社会について、自分の意見を明確に主張することができている。                                 |
| C | 私の「希望」とはどのようなものか、根拠が明確でなかったり、内容が分かりにくかったり、読み取りが妥当でなかったりしている。          | 今や未来の日本の社会について、意見が明確でなかったり、根拠が曖昧で納得できないものだったり、文章につながりがなかったりしている。      |

### カ 指導計画（全12時間）

第1～7時は、第1～4場面の読み取りを中心に行った。以下は、パフォーマンス課題に直接的に関わる第8時以降の指導計画である。

| 時間            | ねらい・学習活動                                                              | 重点            | 記録          | 評価規準（評価方法）                                                                                                                                                            |
|---------------|-----------------------------------------------------------------------|---------------|-------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 8             | ・私の「希望」に迫るために、第5場面の印象に残った表現などから、読みの課題を作り、解決のための計画を立てる。                | 態             |             | ・特徴的な表現、読んだ感想や疑問を基に、文章を深く読むための読みの課題を作り、どの課題をどの順序で解決するか考え、学習計画を立てている。<br>(ワークシート・学びログ)                                                                                 |
| 9<br>10<br>本時 | ・読みの課題を解決することを通して、文章の内容を深く読み、私の「希望」について自分の考えをまとめる。<br>(個人→小集団→全体)     | 思①            |             | ・文章中の言葉や表現に基づいて登場人物の考えを論理的に読み取ったり、他者の読みを参考にしたり、作者のものの見方や考え方と自分を比較したりしながら読むことで、新たな意味付けを行い多様な解釈をしている。(ノート・声掛け)<br>(支援) 論理的な読みになるように、長期的ルーブリックを確認し、三角ロジックを用いて読み取るよう助言する。 |
| 11<br>12      | ・パフォーマンス課題に取り組む。<br>・他者の考えと比較して、自分の考えを更に深める。<br>・自己、相互評価を通して、学びを振り返る。 | 態<br>思①<br>思② | ○<br>○<br>○ | ・これまでの学習や他者の考えを生かして、課題に対する自分の考えをまとめている。<br>・パフォーマンス評価<br>(支援) 学びログやワークシートを見返したり、ペアで内容を相談させたりして、自分の考えを明確にさせる。                                                          |

### (3) 生徒の学びの実際

パフォーマンス課題を予備的ルーブリックに従って評価した。主に三角ロジックの長期的ルーブリックと対応させた思考・判断・表現①の評価は、A…10名、B…21名、C…1名となった。生徒作文の記述を分析したところ、A評価の作文は、読み取りの主な根拠を、「私」の希望を説明するために必要な第5場面の内容である「私－閨土と宏児－水生の関係性」「手製の偶像」「地

上の道」を関連させることで述べている。B評価の作文は、それらの内一つまたは、他の場面の内容を根拠に述べている。C評価の作文は、根拠として文中の表現を取り上げているものの、読み取りが飛躍しており、論理的な読みではなかった。

学びログの裏面に設定したパフォーマンス課題の「解決のプロセス」を分析した。課題解決に向けて必要な内容を構造的にまとめたり、主張への過程をメモしたりして、有効に活用できていると考えられるものをA、必要な内容をただメモしているものをB、内容不十分なものをCとした。A…6名、B…13名、C…13名となった。

5月に実施した詩の読み取り（高村光太郎『ぼろぼろな駝鳥』）における、パフォーマンス課題のループブリックも三角ロジックの長期的ループブリックを基に作成した。前回B評価で今回A評価だった生徒のパフォーマンス課題の自己評価を以下に示す。

今までの学習を生かしながら理由に関連を持たせて書くことができた。また、自分が授業の中で感じた身分などの格差がない公平な社会の良さについてもふれながら書くことができた。「故郷」の特徴的な表現や最後の希望についての作者の考えにも触れて書けたのもよかった。

長期的ループブリックの5の段階に示している「複数の根拠の関連」について言及しており、長期的ループブリックが自己分析する際の評価の視点となっていることが分かる。また、別の生徒は次のように自己評価している。

ループブリックで考えると根拠の関連ができたのでよかったと思う。長期的ループブリックでみると4ぐらいだと思った。しかし、まだ他に考えられる主張への批判が書けていないので、そこまで考えられるようにしていきたいと思った。

自分のパフォーマンス課題を長期的ループブリックと照らし合わせて自己評価していることが分かる。また、系統的に段階を示した長期的ループブリックを見ることによって次の段階への具体的な成長イメージを持っていることが分かる。

#### 4 成果と課題（○成果 ●課題）

『主体的に学習に取り組む態度』は、『知識及び技能』を獲得したり、『思考力、判断力、表現力等』を身に付けたりすることに向けて、①粘り強い取組を行おうとする側面と、②①の取組の中で、自らの学習を調整しようとする側面を評価する。」とあることから、本研究テーマである「主体的に学びに向かう学習者の育成」について検証するには、以下の三つのことについて検討する必要がある。一つ目は自らを客観的に捉える「メタ認知」、二つ目は自ら学習を調整する「学習調整」、三つ目は主体的な学習に知識と思考を切り離して捉えることはできないことから、知識の関連付けを表す「精緻化」である。この三つに基づいて、「長期的ループブリックの開発、活用」「学びログの開発、活用」について成果と課題を述べる。

○長期的ループブリックによって、生徒がパフォーマンス課題の自己分析がしやすくなったり、次の段階への具体的な成長イメージを持つことができたりする。つまり、長期的ループブリックが、客観的に自己を認知する「メタ認知」のための足場となると同時に、次の学びに向かうための道しるべにもつながっていると考えられる。

●教師によるパフォーマンス課題の評価と生徒による自己評価に相違が見られた。課題特定ループブリック、長期的ループブリックともに、ループブリック自体を生徒と検討する時間を更に充実させることで、子ども自身の評価する力の育成につながるのではないかと考えた。

○学びログによって、言語化された学びの履歴や本質的な問いに対する学習前後の答え、単元目標に対する振り返りを基に、俯瞰して自らの成長を把握することができ、「メタ認知」の育成につながると思われる。

○また、パフォーマンス課題に学習履歴を活用し、毎時間の授業で学んだ知識を関連付けて課題を解決しようとする学習活動は、生徒自身の知識の「精緻化」を促し、「学習調整」を生み出す契機となる可能性があると考えられる。

●学びログの裏面に設定したパフォーマンス課題の「解決のプロセス」の評価とパフォーマンス課題の評価には関連性が認められなかった。つまり、「解決のプロセス」を十分に活用して課題解決に役立てられなかった生徒がいたことを表している。「解決のプロセス」をどのように活用するか、具体的な手立てを検討する必要がある。

●長期的ルーブリックや学びログを活用することで、教師も長期的な生徒の成長を把握することができるが、それを生徒の力の育成に活用するためには評価をどのようにフィードバックするかが重要である。教育の効果を上げるにはフィードバックが効果的であることは先行研究によって明らかとなっているが、本研究の方法を使った効果的なフィードバックの方法については今後の課題と言える。

### 参考文献

- ・北尾倫彦（2020）『『深い学び』の科学—精緻化，メタ認知，主体的な学び』図書文化社
- ・櫻井茂男（2020）「学びの『エンゲージメント』主体的に学習に取り組む態度の評価と育て方」図書文化社
- ・三宮真智子（2018）「メタ認知で〈学ぶ力〉を高める 認知心理学が解き明かす効果的学習法」北大路出版
- ・高木展郎（2019）「評価が変わる，授業を変える 資質，能力を育てるカリキュラム・マネジメントとアセスメントとしての評価」三省堂
- ・田村学（2021）「学習評価」東洋館出版社
- ・西岡加名恵・石井英真・田中耕治（2015）「新しい教育評価入門 人を育てる評価のために」有斐閣
- ・堀哲夫（2019）「新訂一枚ポートフォリオ評価 OPPIA 一枚の用紙の可能性」東洋館出版社
- ・松下佳代（2021）「対話型論証による学びのデザイン 学校で身につけてほしいたった一つのこと」勁草書房

## 第3章 おわりに

主体的な学習者を育成し、「深い学び」を実現するためには、生徒の課題意識を大切にした学習課題の設定や展開の工夫、生徒の主体的な学びにつながる学習評価の工夫についての実践研究が必要であると考え、研究を行ってきた。

研究（その1）では、生徒が自らの課題意識をもとに学習計画を設定し、単元のゴールを明確に描きながら、主体的に学習に取り組むことができた。研究（その2）では、〈解釈〉→〈分析〉→〈解釈〉という過程の中で、生徒が目の前の文章に根拠を求め、分析しながら読み深めていく手立てを学ぶことができた。研究（その3）では、「長期的ルーブリック」や「学びログ」の開発と活用によって、自らの学びを客観的に捉える「メタ認知」の育成や理解の「精緻化」、「学習調整」につなげることができた。

本研究を通して生徒は、既存の知識や経験と単元の学びを実生活につなげることで、「深い学び」の実現へ向かうことができたと言えよう。生徒だけでなく私たちも、今年度の研究や学びを次の研究・実践へとつなげたい。